



中村俊定文庫  
文庫 18  
229



叙引



余嘗与晋子儀有年僅通一徑某  
往或時余謂晋子曰余未聞子之有  
董句晋子曰嚮有故人忠知之董  
何心決之ぬ子去の董非幾春推鼓  
莫類於渠之董故嚙口而已嗚呼晋  
子非覃思于其道者豈如是也  
或時晋子又謂余曰子ぬく子不ぢり

つれをいふとる前より 芭蕉翁  
曰晋子得句否曰有得 百夜のうら  
める乃かゆ 翁曰我亦得其趣焉  
浮世の果多味小町之 晋子曰意思  
一般如翁婉曲無巧如我未能離巧  
是所以不可及于翁也吁嗟今茲辛  
亥春二月二十九日維晋子没後二十  
五年也晋子往昔有所述化之句兄弟

門人桑之畔貞佐子輒效其類單以摘  
晋子之句為兄以自已之句為弟尚  
且繼之与舊交同游之軍於賦歌  
僊以化一集致於素懷矣果有自言画  
席類猫才識淺陋不可及于晋子者  
胡越千里雖然懷舊之情但不得  
已而就焉耳嗚呼其不可及云者晋  
子云桑之畔之云桑之畔依憑余之

中間ナカコ与晋子屢相親ミ審告カ其首尾テ請  
作ラシ之序ヲ於是ニ余採リ索ル其往事ヲ恍シ在  
幻境ニ較シ揭テ於一兩話ヲ以冠ス于卷端ニ云

享保十六年

辛亥春

弋鳩林

午寂



先師世と去く世と  
梨園の才子白髮新ありと  
いふるがまじけし出づる渠と  
玉真母以て又唐帝と  
振るるの才子予は子と  
夜井中なる有母と  
囊中携ひ及ぶと負れと

ほー新巻のち中あふ、  
六十の巻といふもあつ  
〜驚く〜り母こそ

栗之畔

貞佐

其角の音地はら

〜やあ

其角い〜る共その聲  
喻を便するは法作一初  
也諸句兄弟あつと此事  
有木きしあはきふ〜  
〜り師母あ〜  
可人曰了韻〜句  
廿五と〜あ〜試〜

是母やちるみらわらる  
物免しむ

晋子

梅り香や乞食の家も

眠る

衣の内	観	斗	く	口	と	吸	い	大	候
牛	躰	の	節	ハ	角	又	也	舞	候
角	力	及	汗	が	股	ハ	四	寸	候
鶴	子	乃	一	重	ち	し	と	ん	候
作	梅	の	肘	を	ね	入	善	の	月
豆	腐	き	し	て	疾	疾	お	き	大
竿	列	ぶ	魚	も	地	虫	も	上	候
梅	咲	や	乞	食	の	家	も	南	白
福	々	々	々	々	々	々	々	々	々
舞	候	舞	候	舞	候	舞	候	舞	候

いやうなさいの首の首の色  
 舞校  
 新比と極行くかち友柳  
 舞校  
 ありあの白起天神の道  
 大校  
 冷よ減夕に油嵐りと  
 大校  
 流不し一見香もや先(遠)  
 舞校  
 うけやりのみも換りて香は月  
 大校  
 亨しも志とて流和中(遠)  
 大校  
 豊よ痛く遊子も船のまふ  
 舞校  
 揚枝と物ハ雛のこめらり  
 大校

三つらうの海もまはるる海  
 大校  
 七と九てもふまゝ  
 大校  
 塩物のまゝの隈も石は石  
 舞校  
 朝比奈川よま巴川  
 大校  
 かさのこゝいまは極か  
 大校  
 立ふもまゝふい及あま嵐尾子  
 舞校  
 明礬のりし一節の月  
 大校  
 亮し一白へて下ハ赤日結  
 大校  
 東のの本氣しう一乾態も  
 舞校

足跡ありてとては露に  
 昔蘭普門くく内の大津葉 大較  
 下流く 僅くくくく 同  
 傳説なき森そのまは橋橋くん 露較  
 何と干くく子輪の森の釘 大較  
 冬の蠅もも子橋の橋く 同  
 とくくくく 減く 蟻く 大較  
 人果の深くくくく 同  
 桃の刻深く 伝ふ 柳弓 露較

春部

こしくくくく 雨径鳥 露沾  
 根へくくくく 柳 葛籬  
 川ありて橋あり  
 川ありて其南の森ありと  
 心くくくく 女月の桃さく 親國  
 菊の梅ももくくく 穢柳  
 長海苔や 燈の玉不 菰  
 長流くくく 柳とくく 柳と 先化



いふにまゝいぬりの心ま歸難  
其奈へ家新くけきと難  
出づりやまゝいぬりて  
龍いさくしむる、雲の孫が  
身難

言ふ古五の意

昔の曉つれ 昔の又 幾邦  
まゝのや 瓦あり 海、後の心 友湖

経とちあふ 号案あはに

梅、香やゆもろ。に廿五粒 治測

吾中のまゝいぬりし 山夕  
あゝまや 古五 経、梅、枝 永雅  
拙や 早、い、から 梅のまゝ 本屋  
夕まれもの 蓮のまじけら 浜山  
その枝を 伝境と 未をわや 穴山  
まゝの 絵や 古い 昔の じぬの ち 各園  
まゝの ぬと ぬいし ぬい 梅 来川  
息れぬい ぬきく ぬふ 梅の 落 乾什  
川波の ぬの ぬい や じぬの ぬ 當伝

晉子と申ふは葉の時のこと  
又のりし志と

梅の香と歌くといひ火宅の 湖十

晴しとりの兵あはむあは 新後

初午やお花の心は神五月 永輝

室井の歌と志とふの生さるるうすは  
直と合せさるる

てりしきんはあめをむのせ 松西

うらひのよ

葉 歌心

春の文

晋子

雪や名もなき雪の行松子 欠位

歩の眠と授ふき柳 和色

初虹の雲は禪のけしき 雨滴

梅の飯の店子淋し 長水

井戸の湯の極の善の若の目 字瑞

嘆へ楊枝の旁の浦も 深み

角力とわが仕禱の痛入 和色

梅葉は泣かす新鐘の音 明徳

家書は麻の葉とお拂い 長水



やつととをふん物 出物  
 之と志し 記帳 白綿  
 末の三粒 結海 字瑞  
 於麻 海とる 共水  
 手形 小山 和色  
 白二 結海 字瑞  
 梅とる 大工 出物  
 能因 一節 出物  
 五和 口とる 出物

側も毒 故 吉磯  
 寺とる 梅とる 扇并  
 於りて 梅の 葉也  
 甚くや 秋也 葉江  
 海とる 井筒の 出梅  
 がとる 時とる 掃尾  
 梅とる 養とる 鳥石  
 うらとる 柳の 蓮江  
 出とる 日とる 出物

萬戸初の町も藪一ト重柴揚  
の橋を揺このもえぬ木の山 莞々  
暮角や鳴阿このも守如み 了遠  
破くく二日も泊れすは橋 沾隣  
梅ももかきこ醜もかあつ道 超江  
糸さくくさわきま留玉糸 柗島

鳥の雛や

春鶯のこころ

あつらひ

音子

鳥雛、伊勢ゆりあ 弦入が 出佳  
さくくちやとくま 編子 蓮雨  
物らりも夕、対は夜更そく 欠唇  
白あやちや粉屋 おま 海舟  
娘ひまわり葉湯の朝花月 香花  
まきみゆ葉の款味ゆ 局 桂井  
あつらひ如、海へきまのむ 三花  
あつらひあつらひあつらひ 友湖  
親あつらひあつらひあつらひ 海舟

一 歌 焼んの尾と焦子 魚 穴磨  
 元娘のまはに 知れし 青 簾 桂井  
 杉原のり 流 看板 穴磨  
 杉原のり 流 看板 穴磨  
 とくも 烟 歌して言ふ 蓮雨  
 藍鶴も言はし 十夜月のあ 友湖  
 翠丸の川 伴 土壘桶の上 桂井  
 村中も毛の西果と 浮るら 徳升  
 廊下の幕と 喜ぶしを 徳升

やめくしりつ 昔もあは 穴磨  
 かく一男の 青目んは 友湖  
 泣ふと 娘は 青目んは 友湖  
 赤由流し 大崎口 穴磨  
 鞍馬のまは 乃魚の 穴磨  
 石万遍の 果は 穴磨  
 尺の 穴磨 穴磨  
 さくさく 穴磨の 穴磨  
 孝さく 穴磨の 穴磨

陸利 海々 羅 瓦 華 小 語 升  
版 嗣 其 月 の 新 借 し 之 也  
ま っ ち 菊 ち り 咲 っ へ り 垣 青 色  
時 時 も 葉 尾 垂 っ て 垂 る 糸 並 而  
枝 買 っ て 人 の 長 の 之 也 公 位  
所 々 ぬ 曾 翁 の 子 存 柳 和 公 丸  
け っ け っ と 蹴 っ て 一 の 上 桂 井  
呼 っ 呼 っ 呼 っ 呼 っ 呼 っ 右 池  
笑 っ 踊 っ 踊 っ 踊 っ 踊 っ 左 池

梅 々 や 只 ち ゝ ち ゝ ち ゝ 甚 師 瓦 團 盛  
む ち の 名 々 ち ゝ ち ゝ 二 号 百 之  
鱗 っ ち っ 隆 っ ち っ 月 の 梅 也 五 作  
門 柳 々 々 々 々 々 々 々 々 吹 之  
木 賃 っ て 出 出 出 出 出 出 出 出  
其 底 々 々 照 也 々 々 々 々 長 々  
石 切 々 々 々 々 々 々 々 々 一 層  
也 其 波 々 々 々 々 々 々 々 門  
初 年 々 々 々 々 々 々 々 々 玉 的

今日もや晴の連立ち給 平洲  
ふらふらと目子立 柳子柄の 角生  
恒新の公事と 柳やあま 白鳥  
ふらふらと吾妻 柳のこころ 柳可  
若も隅に 柳のこころ 柳可  
うらふらとの人 柳て 岩福 宗瑞  
柳子柄

教も打に 唄も南 男も

琴と尺の柳の系手 柳の系手  
糸魚 詠の 清士の 糸魚 糸魚  
子魚 詠の 志川 柳や 乾糸 じ 東里  
下らも あまの 柳 柳 柳 柳  
坂車 寧 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の  
一ハハ 井に 世中 乃 柳 周花  
柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の  
珠 散川 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の  
戒子 柱の 柳の 柳の 柳の 柳の



光く照る二里の山影 翠字  
新代算用もまだ 紫一 諸  
付テと音行の字に 厚後 凡  
去開くお多 紫抄子と先 永阿  
師走のきり 紫の流 如格  
西し、新しめあれ 紫如月 并立  
一の入 一 産年 二二  
下戸の花三河 紫と路 速し 中  
紫ふま 紫 紫も 紫の 紫 中 品

彼岸中 四時 紫の筆 且 紫 東里  
村布も 牛七日の 紫 紫 泥 周 紫  
紫一も七 紫の 紫と 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫 紫よ 紫 紫 紫 紫  
見も 紫 紫 紫と 紫 紫 紫 周 紫  
紫も 紫 紫の 紫 紫 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫の 紫も 紫 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫と 紫 紫 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫も 紫 紫 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫も 紫 紫 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫も 紫 紫 紫 紫 紫  
紫も 紫 紫も 紫 紫 紫 紫 紫

鳥よな いまこゝに ありて 貝がら 二三  
 橋の尻子 糸合共、顔とら 周花  
 まな 物とくつらこゝに 石切 如松  
 勅尚一 勅尚うもて 樂性比 永河  
 神より くらせ 神性の 綱 東里  
 入 けくら 三日、内子 種より 翠字  
 大 繩 活ても 毛合らた子 糸文  
 人 丸よ 魚おと 毛の おまう 乙乙  
 衣 返り 籠子の ぶり くら 襟 中否

赤穂や 宵戸、いふおの お女舟 注海

此脚を 舟中の一 此を 舟の 舟の 舟の  
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

かしこ ちり 盤の 糸、 破 破 波 麥  
 桃さや 屋敷も ちり 芳し み 注宮  
 周の 梅香 ちり 連摩の 差糸 東流  
 梅の 香や ちり 志の 初也 糸更  
 切帯の 口懐う ちり 糸柳 亭と  
 接帯 糸 木の 芽中 ちり 氣め 可幸

梅の香や立埒くの焼嵐 童目  
玉梅の袖の香は 院の那 長局  
白梅や海の小雛 甲斐位 徳  
象園や天の下のし女 花 祥鶴

君梅の句とてしりし

詠句少滞かこもや 梅の句 新 多笑

猫の子 中

徳つたれ侍

胡蝶 中

晋子

梅の香はさつて胡蝶 中 冬作  
花をばたきあはれ 中 思已  
竹柳碎ふは 中 耳も 中 同  
いさふ清の葉 中 表の伏勢 中 冬作  
若る 中 とお 中 の 中 花 中 の 中 家 中 同  
消炭 中 走 中 刺 中 の 中 人 中 思已  
此 中 子 中 在 中 原 中 と 中 中 中 角 中 の 中 丸 中 同  
若 中 の 中 不 中 自由 中 菌 中 の 中 立 中 の 中 丸 中 冬作  
若 中 の 中 身 中 の 中 未 中 婦 中 身 中 の 中 面 中 色 中 思已

今の捕鯨船二隻入るが  
この為捕鯨の船はあつても  
年々、あつても増へるが  
船師の産へつゝの官  
垢をたれおる借りと森  
時なると船の喜とふ  
未右觸りあさりの  
未時船の濁末  
弱りさく船の狼籍  
至的

見ゆも空をわくを借る  
十右船好乃名い立り  
戸の明と走は白  
至船、お深い浪  
震もせく船幸類  
昨日、紙とと船  
和船や海川  
舟船と、船の  
必と船の船  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚  
葉揚

舟のしよ白いしよ入るに聞 事物  
 七夕の似しきもの十日月 玉的  
 燈の丸をのりけ轉るに 欠位  
 秋葉の袖と龍と見合て 玉的  
 梅の舟よしよ不豫念の豆 葉物  
 竹のしよこしよの舟よしよ思 玉的  
 花よしよ寺よしよ蛇よしよ舟 欠位  
 花の鼓よしよ響く梅の音 葉揚  
 列の舟よしよ舟よしよ舟よしよ 玉的

傘の尻と志しよに梨のむ 舟揚  
 いさつしよに園の小艇のしよま 市売  
 船の背もたしよがしよ梅の舟よしよ 沽格  
 舟よしよの舟よしよに欠位よしよ 才牛  
 浦合のちよしよ走しよる舟の垣 潭水

即興

孫の舟よしよと舟よしよ葉の下揚 沽帆  
 何狭くしよしよつ舟よしよみれ喉 欠位  
 舟よしよしよ舟よしよ舟よしよ舟よしよ 道岳

風ささる木魚の鱗や山ささる 道子  
勢の力や瘧のよとの燈舟所 筆井  
梅の香や車くつら又辛くつら 秋宴  
雨の音や林の音も奥の境 松泉  
鳥の如く居るのあふや春の牛 一葉  
貝吹やしゅう一様の音かこゝと 幸魚  
也くすまき

うやこゝの幕の

素子

晋子

花のよきと武家の幕の如く 穴作  
虫の如くさかすもくは様々 和波  
と船の雲も海は橋の神の道 同  
箱買はては長くはくす 穴作  
涼し水の月とあふる道の損 同  
車 被いさす雨の如くさく 和波  
手代とも思ひくしの篠海 同  
老々局一葱の鉢投 穴作  
不切、不敷、不強の果は糸 起波

鷲 鳥 へし 松のふらふら 欠作  
去古の松討の時乃趣り所 拓波  
仇酒の味線のみ子 欠作  
新酒のかく付くかほけし 拓波  
雲霧のたもと 欠作  
火取のたもと 欠作  
かゝる牛のたもと 欠作  
土等 欠作  
らんか 欠作

三巻のしと筆入達子 敲るが 欠作  
蹴とと踏れぬ 勤勤 拓波  
産の山とたのたのたのたの 欠作  
何れ口よりいへば 欠作  
比叡のたのたのたのたの 欠作  
蛇のたのたのたのたのたの 拓波  
無病のたのたのたのたの 欠作  
牛のたのたのたのたのたの 欠作  
黒梅のたのたのたのたのたの 欠作

蘇のころもお三平のあはれ  
拓波

日に乾きし月、紅き紙子具  
只他

年、福も子、扇尾子の也  
起波

站崎、權あるそくは、いさか  
起波

四十、こねもそく、刺き  
只他

申さるいなる世の卯、子生業を  
拓波

神の鼓、あいつを、以てし  
只他

あまの来元、章、観石  
起波

才、ついで、あ、傷の号  
執事

干、海苔もはのき、わり、清きと  
午寂

汐平、あつと、あ、拂、あも、以、干、中  
素丸

杉、凡、子、琴、柱、と、つ、つ、小、船、も、也、水

其角、大士、い、も、の、船、渡、る、の、序、令、之、風、船、の、交  
り、あ、つ、つ、と、は、習、知、し、て、あ、あ、の、様、を、た、し、し、れ  
泉、に、小、船、を、て、破、着、と、妨、が、た、つ、と、澤、も、俳、諧  
ま、あ、あ、と、こ、こ、を、あ、つ、つ、と

ま、あ、あ、の、ゆ、う、と、衣、を、も、あ、つ、つ、観  
晋如

も、割、て、は、あ、あ、や、あ、の、梅  
芳津

葉、も、も、と、や、都、の、一、島、船、の、歌  
異川

鳥、も、も、あ、あ、と、あ、あ、あ、あ、の、芽、は  
和風



柳とくゆめう〜と家硝子包 袖子  
河干小をよふちの大井川 穴位  
磨の目子研りいゝまほて雪解池 土糞  
入おのる子科へ〜とふかろ 糞  
焼毛の路も葉く〜とささる 上田 法源  
こも梅や共九りと葉ふ〜と也 蛸牛

二箇の 角豆 耳子

や梅さる

二箇の〜と〜と〜と〜と 泉位  
以られたる手物その他の味〜 泉之  
まゝ大々ら〜と〜と 荒之  
糸の自由と〜と〜と 吟之  
つ〜と〜とや萩の草花と法月 益着  
新も〜と〜と新種の新 了邊  
老人の角力柿皮の丸木橋 蓮之  
無層在郎の脾胃の法と〜 来川  
ゆ〜と〜とのおききゆ〜と〜と 菅花 吟し

賤子網希子玉孝 荒之  
物子言如くく寒し 泉之  
衣らえし世 然素お能 望菊  
百姓のあやの鯨いありあ 了遠  
案ら子の弓如くはるも 只他  
油のくくはのく 泉之  
海舟の中へ 一床の落の力 蓮之  
世の世の表くを去象又 東川  
ゆりのの端陽珊瑚珠の宿 水之

袖く人情く命子日、水之 荒之  
松の朧と打割く 了遠  
浮糸のくも 減切 杜宇 望菊  
小苗結さく湯玉保る 泉之  
池上、曠のくあわ 臺 蓮之  
系も伊勢へ 杯舟 東川  
一也、天晴くく 車僻 只他  
着久くく山行く 壽も言兵 荒之  
まくくや船も知く河の 月 水之

口切おと 新も 新とと 了邊  
蘆井と 新新 一と 堀川也 宜翁  
大群老と 新れと 衆の 穴代  
人並に 多くの 海に 見れし 東門  
西日に 集り 来つ きの 跡 蓮之  
才ふふ のと 又 板橋の 葉金口 泉と  
おれと 打と 帰る 衆 荒之  
生綱の 尾上も 白浪 必の 雪 了邊  
竹典の 意一 一 意中 一 意 宜翁

ちかちか ちかちか ちかちか 輪の 夏 映る  
縁きぬ せいの ぬま ちの 魚尾 衆 蔭有  
と 船の ちの 兼と ぬと 輪の 吾舟  
等の ちや 井の ちの けつ 船の 船牛  
瓶虫も ぬ所 又 船の さと 舟 伴輪  
吾舟と 衆と や 花の 衆の 明鳥 穴代  
吾舟と 吾と や 吾と や 橋 宜翁  
河平の 氣母と 海と 後と 可 宜塊  
ともその 子易の ちや 志と 可 玉井

蘇夢のゆゆや人の五十年 市光  
しものむむと強やむの幕 賤泉  
車はささる曲うたえの流し 籠林 吟  
山梨の曲とわけよ片着 英之  
切はささるやえや海の色 江村

夫山天樹寸馬臣をりんと

決雨  
ささるんや 晋子

象の豆

天敵のくまうりやうか 貞中  
志ぬく破るる流生晦日 才牛  
赤貝の青き穂のありとそと 越波  
お産買ひぬも承が縁ふれ 欠作  
美ふ月舟と境々の先つら 才牛  
活玉のうらゐあ瓦くいの家 若波  
生、皆くは揺物の鞠いあり 宮他  
お夢は様々松島へ立ッ 才牛  
卵産心侶へさ々ぬ新の巻 拓波

日影の浅い本境 香原 欠位  
案子のろろを名はけりてん 才牛  
一騎打ちの塔の 椽の 欠位  
世連の二娘神のふと後之 欠位  
孕むに 施すけり 才牛  
後多々 世にぬきのゆに 欠位  
掬き 濁り 春の 欠位  
鹿も くる 才牛  
聖者の岸く人も 欠位

菊菊、葉の光るも 生く 欠位  
鏡音 聖と 欠位  
坊屋の 才牛  
たむし 欠位  
后 欠位  
指 欠位  
不田の 欠位  
鳥ねて 欠位  
西日 欠位

立派な人のよつる無縁寺 若波  
 多ふもの辨才天の所表具 才牛  
 聖い地別新元と中へい 田一  
 とうこと清きこと猫の掌 欠位  
 新う死なれし名にぬ隣中 若波  
 孫んぢんとそんくはまをう地 才牛  
 切村えんく物まはく地 欠位  
 紫の所けもたはむの空 若波  
 清くくくうあ人の強配 車聲

